

印象材と模型精度

～精度向上へのチームアプローチ～

歯科技工における「模型」は、歯科補綴物製作における原点であり基準となります。その「模型」は、口腔環境等の諸条件や印象材の取り扱いや石膏操作・技工操作など様々な過程が要因となり、製作された歯科補綴物は模型上の適合と口腔内とが一致しない事があります。

「模型」の起点となる印象にはシリコーン印象材をはじめ数々の印象材とシステムが利用されていますが、臨床における印象の精度確認は模型上で製作された補綴物によることとなりますので、より良い適合を求めるには精度の高い印象を得る事が基本条件となります。さらに、医療管理の観点から安全性の確保は診療室に委ねられていると共に、技工サイドにも相応の感染予防に対する認識が必要ではないでしょうか。

今回は、一般臨床の中で最も多く利用されている寒天・アルギン連合印象におけるアルジネート印象材を取り上げ、歯科医院スタッフの作業効率を考慮しつつ安全で精度の高い模型を得る事ができた手順を提示し、日常臨床の一助にして頂きたいと思います。

歯科技工の運動機能要素

～無駄なく・無理なく・より良い技工を進めるために～

優れた歯科補綴物を製作するには、相応の技術と知識が必要となります。様々な知識や技術を習得する為に、日々の仕事に加え研修の機会を設けるのは厳しいと言われるかもしれませんが、私自身は桑田正博先生から教えて頂いた“何故の追及”を考え方の基本とし、日常業務の中でスキルアップとレベルアップに努めてまいりました。

と、簡単に括ってしまう程話は簡単ではなく、悩み苦しみ挫折を繰り返しながら葛藤の日々を送ってきたにすぎません。しかし、先輩の助言や後輩への指導の中で気づいた、私流の時間の作り方・技法の覚え方・技術の高め方を“運動技能”になぞらえてお話しします。

つまり、基本を覚えること・素材を知ること・基準を作ることによって、自分のモノサシが出来上がり、様々なケースや状況に対応する応用力と共に、何よりも大切な柔軟な考え方“姿勢”が身に付いたように思います。

そして、歯科技工士として持てる技術・技能を社会に還元するための私共の取り組みをお伝えしたいと思います。

履歴

今牧 謙 《神奈川県歯科技工士会所属 日技認定講師》

1954年 静岡県出身

1975年 沼津歯科技工士学校卒業

1976年 (株)クワタパネント実習科入所

1983年 (株)コアデンタルラボ横浜 設立

日本歯科技工学会 理事

(株)コアデンタルラボ横浜 常務取締役

〒233-0007 神奈川県横浜市港南区大久保 1-5-26

Tel 045-840-0811 Fax 045-840-0813

Address : imamaki@core-dental.co.jp

